

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

令和3年4月27日現在

研究課題名	「14世紀の危機」に関する文理協働研究——北東アジア地域を突破口として——				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	中塚武		名古屋大学環境学研究科・教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	中塚武	名古屋大学環境学研究科・教授	古気候学	研究総括 気候データの分析
	2	宇野伸浩	広島修道大学国際 コミュニティ学 部・教授	モンゴル帝国史	元朝の環境対策の分析
	3	諫早庸一	北海道大学スラ ブ・ユーラシア研 究センター・助教	モンゴル帝国期ユ ーラシア史	文献データの分析
4	四日市康博	立教大学文学部・ 准教授	モンゴル帝国期東 西ユーラシア交流	環境と交易・物流の 関係性についての分 析	

研究成果の概要

研究成果の概要としてはまず、10月3日にプロジェクトのキックオフ・イベントとしてワークショップ「前近代ユーラシア東西における気候変動と社会」を開催した。そこでは諫早が報告「「14世紀の危機」研究の現在」において、本プロジェクトが主題とする「14世紀の危機」についての最新の研究の1つであるブルース・キャンベル『大遷移』を批判的に検討した。その後、宇野が報告「南宋における大災害発生件数と東アジア夏季平均気温との関係」において、南宋（1127～1279年）治下の長江流域では、12世紀後半の気温上昇期に旱害とそれに続き水害が起きていたことを指摘し、南宋のこの時期を寒冷化とする通説に疑問を呈した。このワークショップでは他にも原田氏による環境工学の観点からの報告「人間活動に対する気候リスクの指標化及び近代以前のヨーロッパへの適用」が行われた。なお、宇野報告には梅村氏（北海道大学）が、原田報告には中塚がコメンテータとして意見を寄せている。

次に、1月14日にはナザルバエフ大学のシャミルオグル氏を迎えて“The Golden Horde and the Crisis of the 14th Century”（ジョチ・ウルスと「14世紀の危機」）と題した招待講演会を催した（モデレーターは諫早）。「14世紀の危機」のなかでも、依然として未解明な点の多い、ロシア平原のジョチ・ウルスの状況について、すでに1980年代から生態環境とパンデミックとを視野に入れて研究を行ってきたシャミルオグル氏の講演と議論を通じて、スラブ・ユーラシア地域における「14世紀の危機」について考察が深められた。

当該プロジェクトのイベントとしては最後に、中塚による集中講義「古気候データは歴史研究にどう活用できるか——文理協働の実現に向けて」を、3月6日に開講した。実に90名以上

もの参加者を集める盛況なイベントとなり、昨今の環境史に対する関心の高まりを如実に示す結果となった。中塚は自らが監修した叢書『気候変動から読みなおす日本史』の成果を踏まえ、それを「14世紀の危機」をはじめとするユーラシア規模での議論に開くための前提として、古気候データがそもそもいかなるものであるのか、それを歴史研究にどのように活用していくのかについて、全3講6テーマにわたる講義を行い、歴史研究者たちとの議論を深めた。諫早（第1講）、四日市（第2講）、宇野（第3講）もそれぞれの講義においてモデレーターを務めた。

この共同プロジェクトの最大の成果は、これが科学研究費基盤研究（B）のプロジェクトへと発展を遂げたことである。諫早を代表者とし、当該プロジェクトのメンバー全員を含む科研プロジェクト「14世紀の危機」についての文理協働研究がこの4月から起動している。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書等）※謝辞の有無について明記願います。

中塚武（監修）『気候変動から読みなおす日本史』全6巻、臨川書店、2020–21年。（謝辞無し）

Takeshi Nakatsuka et al. “A 2600-Year Summer Climate Reconstruction in Central Japan by Integrating Tree-Ring Stable Oxygen and Hydrogen Isotopes,” *Climate of the Past* 16 (2020): 2153–2172. (謝辞無し)

諫早庸一「環境と社会のあいだ——ワークショップ「前近代ユーラシア東西における気候変動と社会」報告記」『スラブ・ユーラシア研究センターニュース』161 (2020): 8–11. (謝辞無し)

諫早庸一「モンゴルの覇権と危機——「14世紀の危機」とは何か」吉澤誠一郎（監修）；石川博樹、太田淳、太田信宏、小笠原弘幸、三宅潔 & 四日市康博（編）『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、2021年刊行予定。（謝辞無し）

四日市康博「モンゴル帝国の解体」千葉敏之（編）『1348年——気候不順と生存危機』（歴史の転換期、第5巻）山川出版社、2021年刊行予定。（謝辞無し）

中塚武「古気候データは歴史研究にどう活用できるか——文理協働の実現に向けて」公募プロジェクト型共同研究「14世紀の危機」に関する文理協働研究——北東アジア地域を突破口として」集中講義。北海道大学（オンライン）、2021年3月6日。

宇野伸浩「南宋における大災害発生件数と東アジア夏季平均気温との関係」公募プロジェクト型共同研究「14世紀の危機」に関する文理協働研究——北東アジア地域を突破口として」キックオフ・ワークショップ「前近代ユーラシア東西における気候変動と社会」。北海道大学（オンライン）、2020年10月3日。

諫早庸一「14世紀の危機」研究の現在」公募プロジェクト型共同研究「14世紀の危機」に関する文理協働研究——北東アジア地域を突破口として」キックオフ・ワークショップ「前近代ユーラシア東西における気候変動と社会」。北海道大学（オンライン）、2020年10月3日。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

「14世紀の危機」についての文理協働研究」日本学術振興会：基盤研究（B）、2021年4月–2025年3月（研究代表者：諫早庸一；研究分担者：中塚武、宇野伸浩、四日市康博、大貫俊夫 & 西村陽子）が採択。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。